

いけがみ いせき 池上遺跡

令和5年2月25日(土)

現地見学会

池上遺跡では、これまでに開発に伴う発掘調査を数回にわたり実施しています。

今回の池上遺跡の発掘調査は、(仮称)道の駅「くまがや」の整備に伴い、令和2年度から実施しています。

見学会では、今から約2,000年前から池上地区にどんなふうがあり、どのような暮らしがあったか、自然とどのように共存してたかなど、古代の熊谷について理解を深めていただければ幸いです。

今回の見学場所

池上ムラの変遷

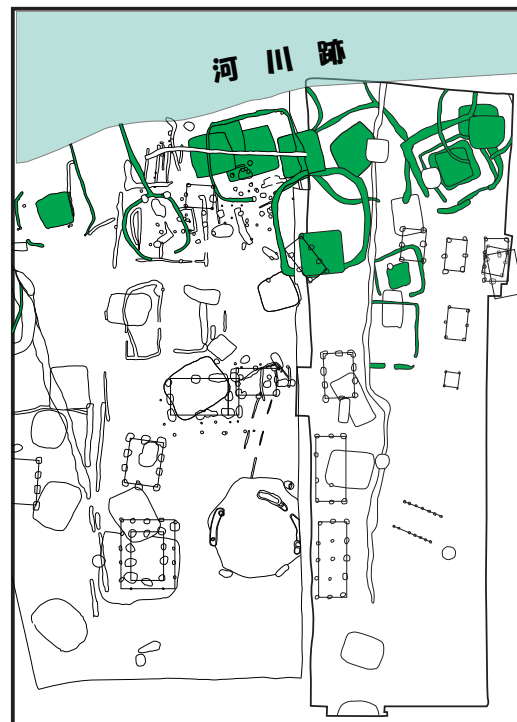
弥生時代中期

およそ 2 千年前（紀元前後）



古墳時代前期

4 世紀ごろ



奈良・平安時代

8～9 世紀ごろ



弥生時代中期の集落跡が確認され、これまでに 14 軒の建物跡が見つっています。

いずれも地面を掘り下げた竪穴建物ですが、すべてが同時期ではなく、また、川に近いことから浸水被害を防ぐために、竪穴の深さを浅くして建てたり、川から一定の距離をとるように建てたりと、工夫と苦勞を重ねながら生活していたことが分かりました。

古墳時代前期になると、人々は川の岸に沿って集落を営み生活していました。これまでに 21 軒の建物跡が見つっています。

それらの建物は、周囲に溝が掘られていることが特徴です。集落の立地から、水の浸水を意識しての設備と考えることができ、近くの川への排出設備も備えていました。また、水を得る必要性が高く、川のそばに住み続け頻繁に建て替えが行われていました。

奈良・平安時代になると集落の様子は一変します。竪穴建物は皆無となり、代わりに掘立柱建物が造られるようになります。

これまで 20 棟見つかり、うち 1 棟は四面廂建物という特殊な建物が確認されています。この建物は、このムラの中でも格式ある重要な建物であった可能性があります。

これ以外にも「中」と墨書された土器が 40 点以上見つかり、何らかの意味が考えられます。

最新情報を随時更新中！

河川跡

今回の見学場所

※西隣は令和3年度調査箇所



河川跡 全景



土坑（古墳時代）出土遺物



弥生土器 壺



竪穴建物跡（弥生時代）と掘立柱建物跡（奈良・平安時代）の重複



竪穴建物跡（古墳時代）



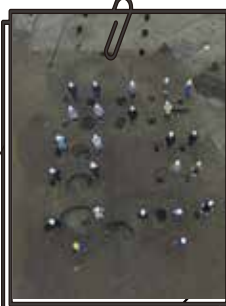
竪穴建物跡（弥生時代）



掘立柱建物跡（奈良・平安時代）



竪穴建物跡（弥生時代）



四面廂掘立柱建物跡（奈良・平安時代）

溝状遺構

溝跡

井戸跡

柵列

井戸跡



溝跡（奈良・平安時代）遺物出土状況



竪穴建物跡（弥生時代）

四面廂掘立柱建物跡



竪穴建物跡（弥生時代）

凡例

- 竪穴建物跡（弥生時代中期）
- 周溝持竪穴建物跡（古墳時代前期）
- 掘立柱建物跡 等（奈良・平安時代）